

令和6年度第2回玉野市教科用図書選定委員会 会議録

開催日時：令和5年7月24日（月）9：00～16：50

開催場所：玉野市庁舎 4階 第1委員会室

出席者 9名

欠席者 なし

<内容>

1 開会（委員長）

2 経過報告

（事務局）6月1日の第1回選定委員会後、6月8日に第1回教科用図書研究委員会を開催し、見本本が届けられた全ての教科書について、調査研究を開始。
6月14日から7月3日まで、教科用図書見本本展示会を開催。
7月24日に、第2回教科用図書研究委員会を開催し、協議・調査・研究を取りまとめ、全ての教科書について研究報告書を作成した。

3 採択に係る意見書について

（事務局）教科書見本本展示会において、今回、提出された意見書について報告。

4 説明・協議

（事務局）種目ごとに、研究委員の報告を聞いた上で質疑応答し、研究委員を一時退席させて協議を行うことについて説明。

（事務局）本会の会議録の概要を後日ホームページ等で公開することを了承いただいた。

（委員長）了承する。

【国語】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・どの会社もわかりやすくまとめている。
- ・思考ツールは東書と光村がある。
- ・見通しをもって学習できるように学習のめあてなどがある。(巻頭に東書と光村にはある、教出には单元ごとに)
- ・若手が扱いやすいのは東書、自由度が高い光村は教員のスキルが必要。
- ・4領域をつなげる工夫がどの会社にもある。
- ・子どもが主体的に学べるか、若手教員の資質向上、業務改善の3点で考えていくとどの教科書会社も一長一短ある。

(選定委員) 東京書籍、光村のマイナス面はあるか？

(研究委員) 東京書籍は学習過程が想定されていて、子どもが「めあて」を作っていく際に、やりにくさがある。光村は、学習の幅が広く設定されているため、経験の浅い教職員は指導内容がつかみづらい。

(選定委員) 取り扱われている教材に違いはあるか？

(研究委員) 定番の教材以外は、大きく違う。今まで取扱いのあった教材が変わることで、教職員の教材研究や図書館の資料等に影響がある可能性はある。

<研究委員、退席>

(選定委員) 国語科において、学び方が固定化される教科書では高学年になると学び方の獲得につながりにくいのではないかと。

(選定委員) 扱っているデジタルコンテンツに差はあまりないように感じる。
玉野市の教員の現状を考えると、いずれにしても今後の指導力育成が必要。

(選定委員) 光村は優れた教材が多い、東書は本当にデジタルコンテンツが充実している。
授業中は教材文が優れている方を大事にすべきでは。

(選定委員) 心を揺さぶられる教材は光村の方が多くはないのか。一般の方の意見にも光村の良さが記されている。

(選定委員) 東書の良さは伝わってきた。光村の教材の良さを生かすことも重要である。

(選定委員) 6年間の学びを考えたときに、現在使用している光村を引き続き使用していく方が良いのでは。

(委員長) それでは、光村を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、光村とする。

【書写】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東書6年 P8・9より、書き方のポイントを合い言葉で表現されている。P22では、書写を生活につなげている。表紙が明るい。
- ・教出6年 P5より、書写の大切なポイントをわかりやすくなっている。4年には、筆圧の強弱が数字で表されている。表紙は学年に応じた内容になっている。
- ・光村1年 P6より、写真やイラストでポイントが表されている。見えにくいのは、ページが上部に印字されている。ポイントを合い言葉にはあまりなっていない。キャラクターを使用し、視覚的に支援されている。

(選定委員) 光村には、色覚特性の生徒へ配慮があるが他の教科書はどうか。

(研究委員) どの教科書にも色覚特性への配慮はある。

(選定委員) 東書はわかりやすく、合い言葉を使っているが書写の専門用語の説明はあるのか。

(研究委員) 記載されている。

<研究委員、退席>

(選定委員) 令和の日本型教育の実現が求められる中、どの教科書会社にも生活科などに関連付けた内容になっている。

(選定委員) 教出はデータ量が多く見にくさがある。東書は、工夫されている点が多く子どもにとってわかりやすい。学年で身につけるべき、資質能力も育成しやすい内容となっている。

(選定委員) 研究報告通り、東書が児童にとっては活用しやすい構成になっているように感じる。

(委員長) それでは、東書を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、東書とする。

【社会】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東書→デジタルコンテンツが独自のもの、ワークシート等もある。
端末を持ち帰り学習する上で、分冊になっていることはメリットとなる。
- ・教出→見開きが片面で収まっているため見やすい。これまで白黒であった写真が、AIなどを活用しカラー写真で表現されている。端末の活用法もわかりやすく記載されている。

・ 日文→SDGs のことがたくさん扱われている。4年（P170・171）には岡山のことが大きく扱われている。

（選定委員） 各社、岡山県のことなどがどの程度扱われているのか。

（研究委員） 教出は部分的な扱いとなっている。東書には岡山市のごみ処理について記載されている。日文は4年生の教科書に多く取り扱われている。

（選定委員） グラフやデータの読み取りをどのように学ぶことができるか。

（研究委員） 東書ははじめにまとめて記載されている。そのほかの教科書はその場ごとに取り扱われている。

（選定委員） 資料の活用を学んでいく上での工夫はあるか。

（研究委員） どの教科書にも工夫はあるが、東書はわかりやく扱われているように感じる。

（選定委員） 教科横断的な学習についての工夫はあるか。

（研究委員） どの教科書にも工夫はあり、所々に関連する記載がある。

（選定委員） 社会科は、小学校と中学校の学習のつながりも大切と考える。つながりは意識されているか。

（研究委員） 押さえないといけない内容は、どの会社もほぼ同じであり、キーワードに大きな差はない。そのため、どこの教科書を選定しても差はないように感じる。

（選定委員） 日文と、東書を比較してポイントは？

東書は、学習内容量が適切で分冊となっていること、またグラフの学習を進めるに当たってわかりやすい。日文は岡山県の記載が充実している。

< 研究委員、退席 >

（選定委員） デジタルコンテンツを実際に見ると、教出はNHK for schoolにつながるものであった。東書は独自のコンテンツにつながる。

（選定委員） 東書は工夫が多いが、日文が岡山のことを多く扱っていて（30ページ以上）よいのでは。

（選定委員） 日文のグラフの読み取りは、東書と比べても遜色ないのではないか。

（選定委員） 日文に「岡山」が扱われているのは、本市の子ども達にとって、大切なことではないか。

（選定委員） 東書の資料読み取りやすさを選択するか、日文の岡山県の記載が充実したものかを選択するかの議論になっている。委員のそれぞれの思いを確認する。

（選定委員） 若干日文の方が良いのではという意見が多い。

（委員 長） それでは、日文を選定することでよいか。

（選定委員） よろしい。

（委員 長） それでは、日文とする。

【地図】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東書→基礎基本の定着に関して、わかりやすいものとなっている。縮尺がものさしで表されている。ポイントなどが、キャラクターの吹き出しで扱われている。わりつけが大きく工夫が必要である。
- ・帝国→知識技能の定着にむけて、工夫がある。探求心を育成される。玉野市に関する記載で、造船のものがある。発達段階に応じた活用方法ができる。印刷が明るくはっきりしている。自然災害に関する記述もある。

(選定委員) 2社を比較し、大きなポイントはあるか。

(研究委員) 帝国は、内容が充実し、岡山や玉野の扱いが大きい。また、構成が工夫されているため6年生でも十分扱える内容である。

<研究委員、退席>

(選定委員) 東書も帝国も岡山や瀬戸内を扱っているが、帝国はより詳しく扱われておりふさわしいのではないか。

(選定委員) 帝国の地図の玉野市に造船のマークがあることも、地域理解には重要ではないか。

(委員長) それでは、帝国を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、帝国とする。

【理科】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・学 図→キャラクターを活用し、単元で身につけさせたい力が明確である。夏休み前の内容が、曖昧で児童にはわかりにくさがあるのでは。
- ・教 出→単元末に「ふりかえろう」、「たしかめよう」が近くにある学習しやすい一方、わかっている子どもからすると「答え」が近くにあるので工夫がいる。
- ・大日本→「結論」という言葉が3年からある。用語を正しく使うためには重要であるが、児童の実態とは合っていない可能性もある。
- ・啓林館→岡山について扱っている部分がある。
- ・東 書→ペーパーレスで学習していけるもの、デジタルコンテンツが豊富、岡山について扱っている部分がある。

(選定委員) どの会社もデジタルコンテンツが豊富であるように思うが実際はどうだったか。

(研究委員) 東書は、本市に整備している学習支援ツールを活用して学習しやすくなっている。啓林館はスマート解説があるのが特徴である。

(選定委員) 教科横断的な部分についての記載はどうか。

(研究委員) その出版社も算数や国語等との関連が記載されている。

<研究委員、退席>

(選定委員) 東書はめあてに当たる部分の文字が大きく感じるが、現行のものも大きい視覚的に支援が多くあり、わかりやすい。

(選定委員) 記載は東書も啓林も良いが、デジタルコンテンツは東書の方が充実しているように感じる。

(選定委員) 東京書籍はふりかえりの活動で使用しやすい作りになっているように感じる。

(委員長) それでは、東書を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、東書とする。

【生活】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東書→デジタルコンテンツが細かく分かれている。視覚的に支援に効果的。観察カードの書き方を詳しく書かれている。学習の見通しがもちやすい。児童の思考過程を追うことができる。問題意識が提示されていて、めあてがたてやすい。
- ・大日本→ワークシートとして教科書を活用できる。字が小さく視覚的にわかりにくさもある。
- ・学図→全体として、情報量が多すぎて、低学年の児童にとってわかりにくさがあるのではないかと感じる。
- ・教出→6つの力に分類されていて身につけさせたい力がわかりやすい。絵の種類が非常に多く、視覚での情報量が多すぎてわかりにくさがある。
- ・光村→「どんなきもちになったか」だけではなく「気づき」に目をむけさせたい。
- ・啓林館→思考ツールは紹介されているが、活用場面が限定されていることや、発達段階によっては、使用しづらさもあるように感じる。

(選定委員) どの会社も盛りだくさんではあるが、実際に授業を行う者として扱いやすいのはどのように感じるか。

(研究委員) 東書は、学習がパターン化されており、シンプルにまとめられている点が、小

学校低学年の児童にとっても良いのではないかと感じる。

＜研究委員、退席＞

(選定委員) あらゆるところに、視覚支援がされているものが東書で、情報量が適切なのも東書であるように感じる。他社は情報量の多さが気になる面はある。

(選定委員) 情報量が多すぎると、低学年の児童にとって焦点化しづらいので、特に生活科については、情報量が適量であるものがよい。

(委員長) それでは、東書を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、東書とする。

【算数】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東 書→デジタルコンテンツが充実。授業一時間での学習サイクルがイメージしづらい等教科書の扱いにくさがある。
- ・大日本→デジタルコンテンツが充実。2～6年まで分冊されていない。写真や図が豊富ではあるが、情報量が多く学習の中心をつかみにくい。
- ・学 図→めあてからまとめへの流れが複数ページにわたっている。6年に分冊があり、中学校へのつながりが意識されている。考えをブロックで表すことが多く、細かい数を扱う。
- ・教 出→単元末に4コマ漫画でまとめてあり、わかりやすい。日常生活と算数をつなげる工夫がある。教科書を開き活動するような箇所があるが、教科書を開いたときに厚みがあり、活動しにくい。1単位時間での区切りがわかりにくい。
- ・啓林館→デジタルとアナログ両方での学習が行いやすい。主体的に学習を行う工夫が多くある。職業人のインタビューが掲載されており、キャリア学習にもつながる。重要語句には色わけがされており学習者と指導者にもわかりやすい。めあてからまとめまでが、わかりやすい構成になっている。
- ・日 文→既習事項のふりかえりから始まるので、わかりやすい。めあてからまとめまでが、複数ページにわたっている内容があり、扱いにくいところがある。教科書は分冊になっている。学習課題をつかみにくい部分や具体的な操作をしながら考えたりすることが難しい場面がある。

(選定委員) 情報量が多いと記載されている出版社がいくつかあるが、具体的にはどのような部分か。

(研究委員) 教科書をもとに確認。

(選定委員) 割合の学習について、難しさを感じる児童が多くいるが、そのあたりへの対応はどうか。

(研究委員) 「もとにする量を1にする」という表記があるものと、無いものがあるが、授業展開によって、記載がある方が良いか、ない方が良いかわ変わるの、一長一短である。

<研究委員、退席>

(選定委員) 6社を比べると、啓林館がわかりやすくまとめている。割合の学習を指導する際に、一部の児童が求めることまでたどり着かないのではないかと思える教科書もある。2年の時計の学習で考えても、啓林館はわかりやすい。

(選定委員) 算数科は、1単位時間についてのまとまりがわかりやすいのが、本当に必要なことなのかを含めて検討していくべきである。

(選定委員) 積み重ねの教化のため、一単位時間の区切りはわかりやすい方が良い。

(委員長) それでは、啓林館を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、啓林館とする。

【英語】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東書→わかりやすくまとめている。学習の中心がわかりやすい。デジタルコンテンツでの配慮がある。(復唱する際の間がある。)別冊として辞書がある。A4サイズであり、書き込みがやりやすい。基本的なことから発展的なことまで、学習しやすいものである。
- ・開隆堂→情報量が多くつめこまれている。やることについてはわかりやすくなっている。デジタルコンテンツの再生する速度を変えられる。別冊として辞書がある。各Lessonの始めに具体的なこと(指示等)が書かれている。文字と挿絵が記載されている。(指示が多い)
- ・三省堂→情報量が少ないため、ワークシートやノート等を別に準備する必要がある。難易度が高めのものとなっている。デジタルコンテンツは静止画であり動きがなく、わかりにくい。未完成の部分があり、視聴できないものがある。別冊として辞書がある。各unitの関連性を強く意識された構成。
- ・啓林館→落ち着いた紙面構成になっている。学習に集中しやすい。書き込み欄が少し小さい。写真資料が他社と比べて多い。巻末の資料が薄い。デジタルコンテンツでの、学習者への配慮がある。ワードリストが巻末にある。既習事項を活用する場面にもう少し工夫がいる。基礎基本を学ぶには扱いやすいものである。

・教出と光村は、教科書の大きさが小さく、扱いにくく感じる。

(選定委員) 東書と開隆堂の2社が特に肯定的な記載が多いが、比較するとどのように感じるか。

(研究委員) 開隆堂はわかりやすいが、丁寧すぎる面があるように感じる。東書は適度に児童が英語について考えることができるつくりになっている。

(選定委員) 各社の扱っている単語の違いはあるか。

(研究委員) 各社とも、そこまで大きな違いがあるわけではない。単語の巻末資料は附属か別冊かの違いがある。

<研究委員、退席>

(選定委員) 開隆堂は丁寧さがあり、指導者の違いによって差がでにくいと思った。東書は、自由度があり、学習の幅がでる。教科書をワークシート的にも活用できるのでトータルのには東書が良いと思う。

(選定委員) 東書の自由記述欄が充実していることも、良いと感じる。

(委員長) それでは、東書を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、東書とする。

【音楽】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

・教出→学びや気づきを書き込めるようになっている。学習マップに見通しが示されている。既習事項とのつながりもわかりやすい。デジタルコンテンツも、演奏されている部分ができるように楽譜が点滅するなど充実している。デジタルコンテンツで音楽編集や自動演奏ができない。

・教芸→「見つける」「考える」「歌う」等の視点をもってまとめている。児童が主体的に学習できるような工夫がある。デジタルコンテンツでは自動演奏や音楽編集ができるようになっている。課題解決学習に力を入れた構成になっている。

(選定委員) 全学年の扱う教材について、児童の興味を引くものになっているか。

(研究委員) どちらも児童の興味を引く教材になっている。

(選定委員) 教材の配列について違いはあるか。

(研究委員) 教芸は、低学年から「身近」「日本」「世界」と発展している構成になっている。

<研究委員、退席>

(選定委員) 教芸の方が、各学年統一感があり 6 年間を通して身につけていくことができる構成になっているものが多い。

(選定委員) 楽譜を見るときに、教芸の方が余白が適切に設定されていて、教科書をもっても見やすい。

(選定委員) 教出も教芸も、ページ番号や音符等は見やすいところもある。

(委員長) それでは、教芸を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、教芸とする。

【図工】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・開隆堂→キャラクターを使って、基礎基本をわかりやすく身につけることができる。写真が大きく、迫力がある。図画工作と社会とのつながりもわかるようになっている。ICT を活用し、図画工作を楽しむことができるようになっている。子どもの作品が多く掲載されているため、創造性を育むには、工夫が必要である。
- ・日 文→道具の扱い方を詳しく説明されている。子どもの創造性を育むための言葉かけで表現されている。鑑賞の場面では、対話型のしかけがある。各単元のレイアウトがわかりやすくなっている。思考の流れがわかるような構成になっている。どの作品作りでも、見通しが持ちやすい工夫がある。

(選定委員) 道具の使い方の説明に差はあるか。

(研究委員) どちらも記載があるが、日文がより詳しく、専門的に説明されている。のこぎりの説明ページを確認。

<研究委員、退席>

(選定委員) 研究資料に、これからの図画工作の進むべき方向性と記載があるが、内容を確認すると ICT 指導の充実の意味ととらえることができた。

(選定委員) 1・2年にとって、情報量が多すぎると目移りするので、日文の情報量はより適切ではないか。

(選定委員) 開隆堂が児童の作品が多く掲載されているため、一見良いように感じるが、児童の作品がお手本の影響を受け、創造性を育みにくくなる可能性があるのは確かにと感じた。日文の言葉かけによる表現は良いと感じた。

(選定委員) 用具の使い方が丁寧に記載されているのは良い。

(委員長) それでは、日文を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、日文とする。

【保健】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・学 研→最初のページに学び方が記載されており見通しがもてる。3つのピースで構成されている。「気づく」「考える」「話し合う」という課題解決型の授業を展開しやすい。
- ・東 書→4つの過程で構成されている。まとめやふりかえりを記入できる構成になっている。様々な書体が使われているので、読みにくさを感じる児童がいると思う。
- ・大日本→単元のはじめに見通しをもって学習できるような工夫がある。記述する箇所が少なく、ワークシートを準備する必要がある。保健とSDG s等のつながりが記載されている。有名アスリートのメッセージがある。
- ・大修館→単元によって記入できる内容に差があるため、学習活動の進め方を統一するなど配慮が必要である。
- ・文教社→表やグラフが豊富である。記述欄が少なく、児童が自分の考えを記述することができにくいため、扱いにくさを感じる。
- ・光 文→4コマ漫画で学習課題がつかみやすくなっている。SDG sの扱いが巻末のみである。一単位時間の流れがつかみにくさがある。

(選定委員) 光文のページによって情報量の差があるとはどういうことか？

(研究委員) 出版社によって、一つの内容について、2ページでまとまっているところや4ページでまとまっているところがある。

(選定委員) 授業を行う上での扱いやすさはどうか。

(研究委員) 学研が統一された単元構成を意識しているため、使用しやすさを感じる。

<研究委員、退席>

(選定委員) 学研が、分量や記述欄のバランスが良く、うまくまとめられている。

(選定委員) 子どもが思考しやすい流れになっているのが学研であるように感じる。

(委員長) それでは、学研を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、株式会社Gakkenとする。

【家庭】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東京書籍、開隆堂ともにどちらも課題解決型の授業を構成しやすいものとなっている。
- ・キャリア教育の視点もどちらにも組み込まれている。

- ・伝統や文化にもふれている。ユニバーサルデザインの観点もある。
- ・東書は、文字の大きさや太さなどを変化させてポイントがわかりやすいものになっている。また、学習のまとまりにそれぞれめあてが掲げられており、児童が見通しをもてたり、教師が指導しやすいものになっている。

(選定委員) 出版社に大きな差は感じないが、大きな違いはあるか。

(研究委員) 大きな違いはないが、東書の方が見やすさや、わかりやすさがあるとの意見が出た。

(選定委員) 図や写真に差はあるか。

(研究委員) 東書の方が補足の説明がありわかりやすい。デジタルコンテンツについても同様に充実している。

<研究委員、退席>

(選定委員) 大きな差はないと思う。見やすさは好みの部分がある。

(選定委員) 前回、開隆堂から東書に変わったようだが、見やすさの部分が影響しているようだ。

(選定委員) デジタルコンテンツが若干東書の方が充実している。

(委員長) それでは、東書を選定することによいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、東書とする。

【道徳】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東 書→すべての教材に二次元コードがあり、読み込むとワークシートや音読、思考ツールがでてくる。キャリア教育をテーマとしたものも多い。
- ・教 出→キャラクターの吹き出しで、児童が興味をもって読み進めることができるようになっている。身近なことを題材としているものがあり、自分事として考えやすいものになっている。紙質的に薄く、裏が透ける。
- ・光 村→友達との話合いのポイントが掲載されている。思考ツールを活用でき、考えを深めたり広げたりできる。一言感想のページがあり、これまでの自分の考えを追うことができる。(高学年) 発問が多いため、一時間で内容を理解し深めていくためには時間が必要となる。
- ・日 文→他教科とのつながりが意識された構成。別冊でノートがついている。自由度が高い反面、書くことが苦手な児童にとっては扱いにくい。
- ・光 文→非認知能力に関して、育成できる構成になっている。道徳的価値の良さや自己

の生き方が考えられるようになっている。

- ・学 研→デジタルコンテンツを利用し、理解がしやすい構成になっている。すべての教材にデジタルコンテンツがあるわけではない。

(選定委員) 2次元コードの内容に差があるか。

(研究委員) 端末で読み取ると、直接打ち込めるようになっているものや、関連する資料が掲示されるものなど様々である。

(選定委員) 挿絵が鮮明な分、表情に引きずられて、多様な考えがでてこないのではないかとこの心配もあるが、どうか。

(研究委員) 必要などところに、適切な挿絵があり、思考を助ける役割の方が強いように感じる。

<研究委員、退席>

(選定委員) 東書が子ども達が道徳的諸価値に触れることができる、良い題材が多く選ばれていると思う。

(選定委員) 東書は最近の話題を題材にした教材が多く、日文はこれまでも扱われてきたような題材が多い。最新の話題が掲載されていることは魅力の一つではないか。

(選定委員) 日文のノートや、教出の毎時間の自己評価がついていると、必ず使わないといけないため、授業の幅が狭くなる可能性もある。

(委員長) それでは、東書を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、東書とする。